

07 C A D作図順序

- 作図は施工していく順序とほぼ同じです。プランは塀を優先して外側から内側へ描き進めましょう。
- C A Dオペレーターの方は3D編集前に注釈入力を先に作業していただくと見落とし防止になります。
- 平面図は、真っ直ぐなラインがブレていると目立ちます。
変形の際は、Shiftキーを押しながらの操作することで角度固定できます。
- 補助線が上手に使えると、平面図を描く効率がUPします。
- 補助線がピタッとスナップする箇所は…
補助線側は両端（ドラッグで配置する際はカーソルの位置もスナップ）。
図形側は角の頂点と図形の交点です。
※注意：一見、線と線がピタッと重なって見えていてもずれています。スナップ点に合わせましょう。
- 補助線レイヤ（ピンクのレイヤ）は印刷されません。
訂正作業を想定して曲線は残しておくことをお勧めします。

敷地基礎



draw1 : 敷地・基礎を描く

資料あり ⇒1.敷地 2.基礎
資料なし現調 ⇒1.基礎 2.敷地

- ①-1.敷地形状を描く。 ⇒①-2.境界の名称を入れる。 ⇒①-3レベルを入力する。
- ②-1.建物基礎を描く。 ⇒②-2.高さ・厚みを入力する。
- ③配置する。
- ④敷地基礎図形を選択後、図形上で右クリックし「移動ロック」をかけましょう。

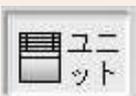
※敷地と基礎はどちらから描いてもOK。

check!!

形状間違いは訂正が大変です。一度、正しいか確認してから次に進みましょう。



ユニット



draw2 : 本体工事を描く

玄関ポーチ、勝手口ステップを作成します。



draw3 : 直接配置する製品を配置

カーポートなど製品を配置。（別の呼び方：シンボル）

基本的には後で配置してOKです。新商品や製品の大きさが影響するものは、先に配置することをお勧めします。この時点では位置合せをしなくてOKです。

draw4 : 塀ユニットの配置

塀や縁取りを描いていきます。

- 敷地の外側から順番に厚みや長さを確認しながら描きます。
- 塀のおさまり（取り合い）から優先順位を確認します。
- 既存塀や配置寸法が決まっているは先に描きます。
- 補助線を「加工メニューのオフセット（or移動）」で寸法を区切って配置する操作が基本です。（まっすぐな塀であれば直接長さ指定ができます）

draw5 : 階段・床ユニットの配置

床・階段を描きます。

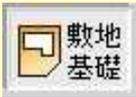
各編集機能特徴を活かしてユニットを選びましょう。

平面図



draw6 : 3D (高さetc.) を入力する。

- ①レベル (道路勾配・水勾配) を設定をする。
「加工メニュー」レベル一括変換。
- ②ユニット (塀・床・階段) の3D編集をする。
個々の編集。すべてWクリックで編集ができます。



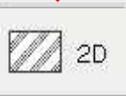
draw7 : 道路の作成

- ①敷地形状を選択後、道路ボタンをクリックし、道路デザイナーで道路を作成。
※作成した道路は、ユニットレイヤに作成されます。
※再編集はユニットレイヤから道路をWクリックして行います。
※道路の上で右クリックし、移動ロックをかけておきましょう。



draw8 : 植栽や添景を入力する。

- ①植栽や添景を配置します。
 - Ver11以降はリアルタイムパース画面に直接配置できます。
 - 植栽が添景より前後関係が上です。
選択がやりにくい場合は、植栽非表示のボタンがあります。
- ②Wクリックし、高さなどの入力をします。
- ③勾配がつく箇所はレベル一括変換をかけます。
 - Ver11以降はユニットレイヤと同時にレベル一括変換できます。



draw9 : 必要に応じて平面表記の調整。

- 1.2Dレイヤで平面表記だけ必要な図形の書き込みや表記上の微調整が必要な場合は図形を描いて調整を行います。必ず必要な作業ではありません。



draw10 : 注釈を入力する。

- 1.右の敷地注釈ボタンを押す。(＋加工メニュー⇒グループ解除)
- 2.スタンプパレットから配置し文字入力をします。編集はWクリック。
見る人のことを考えて、引き出し線の角度や文字の末尾など揃えましょう。

check!!

指示通りか確認をしてから次に進みましょう。

注釈入力するタイミングについて

3D編集前 …早い段階でプラン指示の見落としに気づくことができます。←CADオペレータにおススメ。

3D作成後 …3D情報が注釈に反映されますので、入力作業の時間短縮になります。

レンダリング中 …パース作成の待ち時間の有効利用。



draw11 : CGパースを作成する。

①リアルタイムパースカメラでテクスチャの変更調性をおこないます。

check!!

目地のある素材は開始位置を確認し、位置を合わせましょう。

道路から見て美しい取り合いになっているかを確認しましょう（半端は奥）。

1 アングル1カメラ。カメラはドラッグで追加できます。

②カメラを配置します。

- 作成するアングル分のカメラを作成します。1アングル1カメラ。
- スタンプパレットからカメラをドラッグするとアングルを追加できます。
上記の他にリアルタイムパース画面のメニューから現在の視点をパースカメラとして追加する方法があります。

③リアルタイムパース画面でカメラを選びアングルと効果設定を調整します。
仕上げごとに設定が異なります。あったものをカメラ毎に選択しましょう。
更に好みに合わせて効果設定を変更できます。

- パース橋仕上げ
パース屋TACHIBANA／太陽の向きを微調整（基本はカメラと逆側）
- パースeE-Painter
パース屋標準／太陽の向きを微調整（基本はカメラと逆側）／その他
- 平面図 効果設定は平面図用

※その他立面図用、夜景用などがあります。

効果設定画面で橋仕上に関する部分は左半分のみです。

④レンダリング

待ち時間の間に他の作業を進めることが可能です。

⑤レンダリング一覧から配置

- 平面CGは一覧画像の上で右クリックし「画像レイヤに配置」
- パース画像はお好きな位置へドラッグ
（修正の際は前回パースへドラッグすると挿し代わります。

⑥完成画像の明るさ調整やぼかしなどのレタッチ（ペイント機能）を付けたい場合は

- 明るさ調整 ⇒画像WクリックしSPパレット 明るさの上げ下げ+コントラスト
- ぼかしなどのペイント機能 ⇒画像をWクリックしレタッチ



draw12 : レイアウトをし印刷をする。

①パースや製品写真、図枠などレイアウト。

②ファイルメニューから印刷。

check!!

印刷し、指示通りか、誤字脱字がないか確認しましょう。

作図順序

資料がある⇒1.敷地 2.基礎

資料がなく現調⇒1.基礎 2.敷地

1.敷地を描く方法

方法1：スタンプ

基本



シンプルな形状の敷地を作成する時に使用します。

作図⇒スタンプ画面の敷地を使って（基礎と水平垂直なところから反時計周りに）寸法を入力します。

方法2：三斜入力

複雑な形状の敷地を作成する時に使用します。三斜記入のある資料orスケールであられる資料が必要です。

作図1⇒敷地三斜をスタンプして寸法入力して張り合わせていきます。

作図2⇒スタンプ作図で書いた敷地に画面右の三斜入力で三斜を入力します。



[三斜入力]で検索

方法3：下絵取り込み

複雑な形状の敷地を作成する時に使用します。資料がスケールであたれないとき。

作図⇒「ファイルメニュー」→「下絵取り込み」。その後、下絵を実寸に要請します。下絵にあわせてスタンプした敷地でなぞり、寸法を入力します。



[下絵]で検索

方法5：座標入力

敷地の座標資料があるとき。

作図⇒画面右の座標入力で座標点を入力します。



[座標入力]で検索

方法4：DXF取り込み

手元にDXFデータがあるとき。

作図⇒「ファイルメニュー」→「取り込む」→「DXF」取り込む内容と倍率を設定して取り込みます。取り込んだデータをスタンプした敷地でなぞります。（取り込んだDXFデータはユニットレイヤで削除できます。」



[DXFファイルの取り込み・取り出し]で検索

方法6：基礎を描いてから敷地

資料がなくご自身で敷地を測って来られた時。

作図⇒基礎を描く→補助線で離れ寸法を出す→補助線で線結ぶ→スタンプした敷地でなぞります。

2.基礎を描く方法

方法1：スタンプ

基本



シンプルな形状の基礎を作成する時に使用します。スタンプ画面の建物基礎を使って寸法を入力します。

作図⇒スタンプ画面の建物を使って（基礎と水平垂直なところから反時計周りに）寸法を入力します。

方法2：補助線→基礎



補助線を使って基礎の形を作り、建物基礎に変換します。袖壁や独立基礎などがある時、建物の形状が複雑な時に使用します。

作図⇒補助線で建物基礎の通り芯を描きます。画面右の補助線→基礎。



[補助線から基礎に変換]で検索

07CADをマスターするには…

Hop : 初めての方

会社によって、手元の敷地資料や作図規模が異なりますが、まずは一番シンプルで基本的な操作を習得して頂いてから、それぞれよく使う描き方を応用として覚えていただくと理解しやすいです。



テキスト

納品マニュアルと照らし合わせながら、**作図の流れを習得することを目標**にご覧ください。

CADが初めての方は、平面図と3D編集を分けて練習いただくと疲れにくいです。

繰り返しマニュアルエクステリアプランを復習しながら、マニュアル内の色枠のポイントなどをご確認いただくと、より理解が深まります。

最終的にマニュアルの完成イメージのみで作図ができるところまで復習されると、応用操作が理解しやすくなります。短期間で復習いただくと作図時間もどんどん速くなります。

復習の際は、プラン完成が目的ではありませんので、理解できている部分はとばしてOKです。



Webセミナー

のセミナー動画> CADのマニュアル説明動画の閲覧ができます。

1. 画面操作の基本を理解する。

CAD起動 画面調整（拡大縮小） 選択と解除 図形移動 図形削除 取り消し

2. 補助線の使い方を理解する。

スナップする部分 延長と角度固定 基本補助線、手書き補助線の使い方（オフセット・移動）
 他の補助線の使い方

3. 平面図が描ける。

4. 作図の大まかな流れがわかる。

Step : 基本機能をマスター。実践図面を描く。

各項目の応用操作を覚え、実施図面が描けるようになる。図面は描けば描くほど上達します。

各ツールの「緑の? ボタン」から機能説明を確認する。



Webセミナー

で必要に応じて操作方法を検索して調べる。



Webセミナー

のセミナー動画> 各ツール別に整理しながら習得いただける動画ファイルの閲覧ができます。

特に敷地は資料によって描き方がたくさんあるので、最初にご覧いただくことをお勧めします。

不明点はお電話や07アップデートお問合せからご質問ください。

オーセブンCADの電話サポートは、午前9時から午後6時まで。

日曜日大型連休以外の平日土曜日祝日はサポート対応しております。（別途7月12月に3日程お休みあり）

長時間のご質問は追加研修をお申込みください。その他WEBセミナーなどもご活用ください。

+a : オプションソフトの使い方をマスターする。

建物デザイナーや拾い出しや、その他オプション購入の積算ソフトe-Putなどの操作習得。



Webセミナー

のセミナー動画> オプションソフトのマニュアル説明動画の閲覧ができます。

必要に応じて操作方法を覚える。

長時間のご質問は追加研修をお申込みください。

Jump : さらなるステップUP

●キレイに見せる表現方法 ●裏技的な作図方法 ●効率よく作成する方法etc..

07 C A Dの便利な基本機能

① マウスホイールを使う

ホイールを転がす → 画面の拡大・縮小

ホイールを押したまま動かす → 画面の自由移動

Shiftキー + ホイール → 画面の左右移動

Ctrlキー + ホイール → 画面の上下移動

マウスホイール



設定変更可

② レイヤ移動 : Ctrlキーを使って

Ctrl + ↑↓(テンキー上下矢印) → レイヤ移動

Ctrl + 作業画面をクリック → 補助線レイヤの切り替え

③ 敷地基礎寸法の表示拡大縮小

Ctrl + PageDown/PageUp → 敷地の表示数値が変わります。

敷地の寸法が短く、数値が混み合っていて見えにくい時に使用します。

※注釈レイヤの敷地注釈のサイズは変わりません。

④ ユーザー登録とパーツ登録

●よく使う形状をユーザー登録する。

境界塀など毎回使用するもの。よく使う注釈。オリジナル図枠。

●よく使うデザインをパーツ登録する。

ユニット、造園レイヤで構成してデザインを2D、注釈付けた状態でセット登録できます。

リアルタイムパースで打合せ提案する際にデザインをパツと配置できます。

⑤ 低木地被類のお気に入り登録

中高木は検索配置で十分です。

花壇を丁寧に作成する際に、低木地被などをお気に入り登録して集めておくことで寄せ植えで使う植栽を素早く配置できます。

⑥ 新機能 プレゼンKIT (07CAD3~)

クラウドツールe-Boardのオプション機能です。

e-Boardは基本的に社内で情報を共有するツールで、お施主様に見せるためにはメール送信や記事ごとに共有をする必要がありました。プレゼンKITではe-Boardのデータベースや物件箱の機能はそのままに、お施主様や取引先企業（職人）とも繋がりがやすくなりました。

プレゼンKIT環境設定をおこなったうえでご使用ください。

設定



概要



各機能

